

●今月の法語カレンダー●
仏の願いは そのまま
私の願いは わがまま
帰雲真智

あなたの願いは何ですか。お守りには、家内安全・商売繁盛・交通安全・合格祈願などをよく見かけます。「大経」には、「田があれば田に悩み、家があれば家に悩む。」とあります。望んで得ても、あればあるで悩むもの。お釈迦様は「自分の命を失うようなことがあれば、全てを残してただ一人この世を去り、何も持っていくことはできないんだよ」と教えてくれます。本當の心の安らぎを得るには、やはり仏様の願いを聞いていくしかないのです。

六月の行事

- 朝の日曜礼拝
毎週日曜朝七時
- 仏教講座会
二十日(火)午後一時半
【講師】鈴木善隆師
(本願寺派布教使・滋賀県)
●婦人の集い
八日(木)親睦バス旅行
八時半にJR松戸駅・売店前にお集まり下さい。参加費は八四〇〇円です。(当日)写経会 二十日(火)

- 午前十一時～十二時半
『正信念仏偈』
お経解説&写経
- お経練習会
二十五日(日)午後三時
お正信偈「和讃」スタート
- ヨーガ教室
十四日・二十八日(水)
各午後一時
- アソカ園(老人ホーム)ボランティア 十三日(火)
- 『親鸞聖人七五〇回

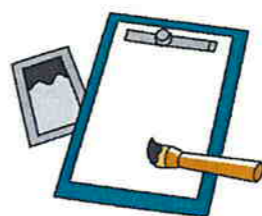
大遠忌についての消息
披露総局巡回
二十二日(木)常圓寺

七月の行事

- 仏教講座会 二十日(木)
- 婦人の集い 十日(月)

写経会スタート!

六月二十日
午前十一時より、「写経会」が始まります。



まずは、一番慣れ親しんでいるお経『正信念仏偈』からスタートです。時にはゆっくり心を落ち着かせるのもいいですね。どなたでもご参加いただけますので、お気軽にいらして下さい。また、午後には「仏教講座会」が勤まりますので、お参りされる方は、一緒にお弁当をいただく予定です。(当日注文、三〇〇円位)

【持ち物】(お持ちの方)
小筆・硯・文鎮
下敷き
お手本・用紙

※お手本・用紙は、「永代経」でお配りしたものです。お持ちでない方は、当日お分けします。

※墨はお寺で用意致します。※イス席ですので、足が痛い方もご安心下さい。



婦人部バス旅行

ご参加の方は、八日(木)八時半にJR松戸駅構内・中央改札前売店に集合下さい。旅行料金(¥八四〇〇)は、当日お願い致します。皆さんで楽しい旅行に致しましょう。



(連絡先)
「はとバス」
〇三―三七六一―一〇〇
バスは東京駅丸の内南口から九時五〇分発です。

メリシヤカ!

「四月八日は何の日か」ご存じですか。そうです、お釈迦様の誕生日です。そうなんだ!と、初めてお聞きになった方もおられるのでは?

メリークリスマス(キリスト様の誕生日)はメジヤナなのに、かわいそうなお釈迦様。

そこで、キリスト教がメリークリスマスなら仏教はメリークリスマス。全国の若手僧侶を中心に、お寺をエンタメするという意気込みで「メリシヤカ」のホームページのサイトが開設されました。

現代社会の中でくすぶっているお釈迦様の教えを分かりやすくお伝えできればと試行錯誤中。様々な形で仏教に触れていただきたいなあと思っております。では、記事を一つご紹介。

オレは小さい頃、家の事情でばあちゃんに預けられていた。当初、見知らぬ土地に来て間もなく当然友達もいない。いつしかオレはノートに、自分が考えたすごろくを書くのに夢中になっていた。

それをばあちゃんに見せては「ここでモンスターが出るんだよ」「ここに止まったら三回休み」

ばあちゃんはニコニコしながら、「ほうそうかい、そいつはすごいねえ」と相づちを打ってくれます。それが何故かすごく嬉しくて、何冊も何冊も書いていた。

やがてオレにも友達ができ、そんなこともせず友達と遊びまくってたころ、家の事情も解消され、自分の家に戻った。ばあちゃんは別れる時もニコニコしていて、

「おとうさん、おかあさんと一緒に暮らせるようになってよかったですねえ」と喜んでくれた。

先日、そのばあちゃんが死んだ。89歳の大往生だった。遺品を整理していた母から、「あんたに」と一冊のノート

をもらった。

開いてみると、そこにはばあちゃんが作ったすごろくが書かれてあった。モンスタアの絵らしき物が書かれていたり、何故かぬらりひよんとか妖怪も混じっていたり。

「ばあちゃん、よく作ったな」とちよつと苦笑していた。

最後のあがりのページを見た。「あがり」と達筆な字で書かれていた、その下に「義弘(オレ)くん友達がいっぱいできますように」

人前で、親の前で号泣したのはあれが初めてでした。ばあちゃん、死に目に会えなくてごめんよ。そしてありがとう。(「シヤカ斬り」より)

私も、「メリシヤカ」メンバーの一員として、メッセー지를発信していきたいと思っております。

ご一緒に始まったばかりの「メリシヤカ」をもちり立てて下さったら嬉しいですよ。(龍哉)

「メリシヤカ」アド→http://www.merry-shaka.com/

「布チヨツキン」

ボランティアに

ご協力お願いします!



カンボジアでは、遊具で遊んだことない子ども達がたくさんいます。

日本では、型紙通り布を切るだけの簡単な作業です。それを現地で縫製し、完成したボールやお人形を子ども達へプレゼントする活動です。

参加は門信徒に限りません。お一人でも多い参加が、助けになります。ご協力よろしくお願致します。

【日時】

七月十日(月)
午後一時半～三時

【場所】天真寺

【持物】はさみ・布

綿の布を集めて下さい。(Tシャツ・レース・キルティング・ネクタイ等は不可)

【参加費】五百円

(「幼い難民を考える会」への寄付金になります)

「インドを訪ねて」

三月一日より八日間、大学の研修旅行でインドへ行ってきました。



インドは二回目ですが、前回はお腹を壊す人続出！連日四〇度以上の暑さに参りましたので、やはり出発前は色々な準備をしたり、体調を整えたりと、ちよつと緊張します。

今回は中央インドを中心僧伽の原点を訪ね、「石窟寺院」を巡拝しました。「石窟寺院」とは、「洞窟を掘って、寺院として使用したもの」をいいます。

仏教は、紀元前五世紀頃（六、七世紀説あり）、釈尊によって開かれた宗教です。仏教の発展によって寺院が発達し、石窟寺院は、紀元二世紀頃まで多く開かれ、華々しい発展をみせたようです。

そこは、お参りする「礼拝堂」と、お坊さん達が生活

するお部屋「僧院」で構成されており、多いところでは、百以上の石窟があります。



これが意外〜！と思いましたが、夏は涼しく冬は暖かです。扉を開けると外の騒音がシャットダウンされ、信仰の場としてもふさわしいと、好まれて使われたようです。

念願の地でしたので、楽しみに参加しました。

まずは到着地・ムンバイまでは、香港・デリーを経由して所要時間十七時間。飛行機から降りてすぐ、インドな雰囲気。暑さと、埃っぽさと、人の多さ！やはりインドはエネルギーッシュなところですよ。

翌日より、早速寺院巡りスタート。まず気が付いた

がいます。時には牛のおかげで、交通渋滞が起きるくらい。ですから、歩く時はまず牛の糞に注意！です。



インドは仏教発祥の地とはいえ、現在ではヒンズー教徒が約八〇%を占めます。ヒンズー教では、牛は神様の乗り物として神聖視され、とても大切にされているのです。もちろん牛肉は食べませんし、車で人をひくより、牛をひく方が重罪なくらいだそうですよ。

インドは、エネルギーに溢れ、大変魅力的な国です。お腹を壊すのは、衛生的な問題もありますが、実はお食事がおいしくてついつい食べ過ぎ、慣れない香辛料に当たってしまう、ということもあるそうです。

しかし、貧富の差が激しく、未だにカースト制度による差別に苦しんでいる人

ことは、石窟寺院ですから、お寺が山の上にあるということ。お寺まで、何百段もある階段を登らないと辿り着けないのです。これはインドの暑さのなか、なかなかハードでした！

一番印象深かったのは、有名な「アジャンタ石窟群」です。紀元前二〇〇〜六五〇年頃の造営とされていますが、仏教の衰退とともに忘れ去られ、一八一九年虎狩りに来たイギリス人によって発見されたといわれています。それももうなすけるほど、深い山の中で



長い長い時間、こんな素晴らしいところ、誰にも見つけられず静かに眠っていたとは：見た瞬間、呆気にとられました。礼拝堂に僧院に、大変色彩豊かな美しい壁画が描かれています。

活動報告

★十日の婦人部では、ご門徒の竹内さん母娘にご指導いただき、仏教讃歌の練習を致しました。大変楽しい時間となりました♪

★二十一日には、「永代経法要」が無事勤まりました。今回は、「いのちをみつめて」という三回シリーズの第一回目となり、「タイ・エイズホスピス現場から」と題し、お話いただきました。当日は、本堂での写真展やタイの手作り雑貨の販売会も開催され、法要後の募金にも多くの方のご協力をいただきました。ありがとうございました。募金は後日、全額（五四五一円）を「アーユス」に寄付致しました。

★法要後、ご講師も交え、門信徒会・婦人会合同の役員親睦会が行われました。

礼拝堂では、現地のガイドさんが「三帰依文」を称えて下さいました。

自ら仏に帰依し奉る
自ら法に帰依し奉る
自ら僧に帰依し奉る

洞窟ですから、音が反響し、荘厳な雰囲気圧倒されました。

手作業で岩山を掘り、丁寧に美しい面を描き、多くの人たちが、どれほど長い時間をかけて作り上げたのでしょうか。その場に身を置いただけで、今では想像もできない程の、ゆったりとした時間の流れを感じました。

七カ所の石窟寺院を巡拝し、サンチーの仏塔を回り、最後は首都・デリーに戻りました。田舎ばかりを巡って来たので、とりわけデリーが都会に見えました。デリーで面白いのは、牛さんたちとの共存生活です。車がびゅんびゅん走る国道にも、駅のホームの中にも、町中至るところに堂々と牛

役員の皆様、いつもお世話になっております。



(役員親睦会)

★十三日、築地本願寺にて行われた「千葉組門徒推進員養成連続研修会修了式」に、履修を終えられた笠井啓作様・太田忠勝様・山崎静子様三名がご出席下さいました。二年間お疲れ様でした。

★天真寺のホームページに「天真寺日記」がスタート。お寺での出来事を折々書き綴っております。ぜひご覧下さい。

★今月の掲示板は、「はだかにて生まれてきたのに何不足」小林一茶のことばです。

合掌

(静香)